

■児童・生徒の学力の状況

- 学習に対して自ら進んで取り組もうとする姿勢は見られるが、積極性に欠ける生徒もいるため、個別に支援が必要な場合もある。
- 「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語では「記述式」の問題、数学では「関数」・「データの活用」の分野の問題、英語では「問題を読み取り、適切な英文を書く」問題の正答率が低い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題  
※「読み解く力」の育成を踏まえて

- 《個別最適な学びの視点》
  - ・授業の「振り返り」に対する助言指導を行う。
  - ・ドリルパークによる生徒個々の学習の進捗状況を把握する。
  - ・興味関心に基づいて選択できる課題を提示する。
- 《協働的な学びの視点》
  - ・グループで行う活動を積極的に取り入れる。
  - ・活動をとおして、協力し合うスキルを習得させる。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- 教師が教え、子どもが習う「受ける授業」から、教師が支援し、子どもが学ぶ「学習者中心の授業」への転換を図る。
- 「主体的・対話的で深い学び」の視点から、実生活に生かされない知識を覚えるだけの学びではなく、理解したことを活用して自分で考え、再構成、再構築してアウトプットできる目的のある学びを実現する。
- 授業の導入時における課題設定をはっきり提示し、終末における振り返りの時間を含めた「自己評価の取組」を行うことで、子ども自身が自分のことを客観的に見て次のステップに進もうとする「自己学習力」の育成を図る。
- 自分ひとりでも勉強ができるよう、教科書が読める「読み解く力」を育成する。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○授業の導入時における「課題設定をはっきり提示→課題を解決する時間の確保→集団解決→理解できたことを発表」等の学習の流れをつくる。	○生徒の実態を踏まえ、めあてを達成させるための手立てを考える。振り返りでは、自分の考えが正しく表現されているか判断させるようにする。	○各教科等の学びを総合的な学習の時間に横断的につなげられるようにする。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○12年間の発達段階に応じて、持続可能な社会の創り手となる子どもの育成をめざす。	○SDGsに関する学習などを通して、生徒が探究的な見方や考え方を働かせて問題解決的学習を繰り返すようにする。	○課題の設定やアンケートの集計などをはじめ、自分の考えを整理して発表するなど、生徒一人ひとりに配付された一人一台端末の活用場面を増やす。